

LA VIDA NUEVA

ラ・ビダ・ヌエバ=新しい生き方



第 160 号 (2023 年 5 月)



- ニカラグア女子野球選手、来日
- ニカラグアと野球
- ニカラグア AHORA～2023 年前半の動き
- 事務局 だより

会報発行／ニカラグアの会 since 1985

代表／小池康弘 事務局長／伊藤幸慶 編集・デザイン／原田篤実
事務局／〒450-0001 名古屋市 中村区 那古野 1-44-17 嶋田ビル 302 号
Tel. & Fax. 052-581-3772

三菱 UFJ 銀行：黒川支店 (普) 3513637 ニカラグアの会
郵便振替：ニカラグアの会 00830-3-63295

e-mail : nicaragu@aichinet.ne.jp HP: www.aichinet.ne.jp/~nicaragu/
Facebook: www.facebook.com/nicaraguajapan

ニカラグアの会は、現地の地域開発を推進する団体を支援する NGO です。
現地支援団体を通じて子供たちの教育や女性の自立をサポートしています。

「夢を叶えるため」ニカラグア女子野球選手、来日

この度、4月26日～5月22日までの予定でニカラグア女子野球選手3名及び指導者1名が来日しました。ニカラグア女子野球リーグは2017年に発足し、2度の世界大会予選に出場。2022年にはスポーツ庁に女子野球アカデミーが設立されるなど、著しく成長、発展を遂げています。そのような中、選手達の夢としてあるのが「世界一の日本でプレーすること」です。その夢を実現するためにニカラグア代表として4名が来日することになりました。ぜひ、今回のプロジェクトご注目ください。(阿部翔太)

目的は以下の通り。

1. ニカラグアと日本の国際交流
2. スポーツにおけるマイノリティ（少数派）である女性が、新しいチャレンジをすることで、日本の子どもたちにも夢を与える。特に今回はWBCの日本代表が優勝したという好機であり、女子野球にも注目を集めたい。
3. スポーツによって女性の社会進出に挑戦しているニカラグア選手との交流を通して、多文化共生社会の実現と、夢の実現に向かう姿勢や意欲を育てたい。
4. 日本の子供たちが日本文化を見直すきっかけを作るとともに、世界に向けて文化の発信を行う。
5. 日本における女子野球の発展



招待選手及び指導者プロフィール

★ハビエル（36歳）。スポーツ庁野球指導者
女子野球設立時から尽力し、2022年女子野球アメリカ予選でヘッドコーチとして出場。現在は女子野球アカデミーの運営リーダーとして活動している。

☆ヒセルダ（29歳）。2022年ニカラグア代表選手。

女子野球発足当初からプレーを継続し、女子野球代表選手としても国際大会に出場。ニカラグア女子野球界を牽引するリーダーとして指導面でも活躍を期待されている。

☆ラキア (23歳)。2022年ニカラグア代表選手。

ニカラグア代表投手。恵まれた体格を活かして投手として急成長。コントロールが良く、代表チームを牽引する投手になることを期待されている。

☆リスカ (23歳)。2022年ニカラグア代表候補選手。

兄が元メジャーリーガーで国の英雄として称賛され、2023年WBCニカラグア代表でもキャプテン・4番サードで出場。兄の影響から野球を始めた彼女は、女子野球の魅力をインフルエンサーとしてSNSで発信するなど、女子野球普及に貢献している。今回は、日本の良さを発信する広報としても活動予定。

プログラム スケジュール案

<期間>2023年4月26日～5月22日

<誘致国>ニカラグア女子野球選手3名/指導者1名

4月26日(水) 宿泊未定	成田空港着		
4月27日(木) 宿泊未定	昼食会 PM:いわき光洋高校 夜:いわき歓迎会予定	5月10日(水) 宿泊未定	AM:佐井中学校 克雷ドーム 夜:むつ市歓迎会予定
4月28日(金) 宿泊未定	PM:いわき湯本高校	5月11日(木) 宿泊未定	AM:東通村中学校 PM:大湊高校
4月29日(土) 宿泊未定	子ども野球フェスいわき(いわき光洋高校)	5月12日(金)	AM:移動 PM:弘前聖愛高校
4月30日(日) 宿泊未定	保育園児遠足登山→アクアマリン福島→BBQ	5月13日(土)	子ども野球フェス弘前(聖愛高校) 夜:弘前市歓迎会
5月 1日(月)	福島市へ移動	5月14日(日)	青森市観光
5月 2日(火)	福島高校or福島商業高校	5月15日(月)	AM:移動 PM:八戸光星高校
5月 3日(水)	福島レッドホープスレディース合同練習(学法石川高校)	5月16日(火)	八戸市→奇跡の一本松→仙台 宿泊:仙台
5月 4日(木)	福島レッドホープスレディース合同練習	5月17日(水)	AM:仙台移動 PM:横浜隼人高校
5月 5日(金)	ジャイアンツ杯福島大会出場 福島合同チーム	5月18日(木)	アサヒトラスト女子野球部
5月 6日(土)	ジャイアンツ杯福島大会出場 福島合同チーム	5月19日(金)	東京都観光
5月 7日(日)	青森市へ移動	5月20日(土)	東京都観光
5月 8日(月)	AM:甲田小学校 PM:あおり明の星高校 青森市歓迎会予定	5月21日(日)	東京都観光
5月 9日(火) 宿泊未定	AM:沖館小学校 PM:移動	5月22日(月)	帰国日

■プロジェクト責任者: チームプラネット代表 阿部翔太

福島県いわき市出身。桜美林大学野球部OB。

2016年10月～2018年10月まで青年海外協力隊として中米ニカラグアへ野球普及隊員として渡航。2017年にニカラグア初となる女子野球リーグを創設し、その後も普及に努める。2023年のWBCニカラグア代表には教え子も出場。

●問合せ

チームプラネット代表 阿部翔太

Email: shotabaseball.com@icloud.com

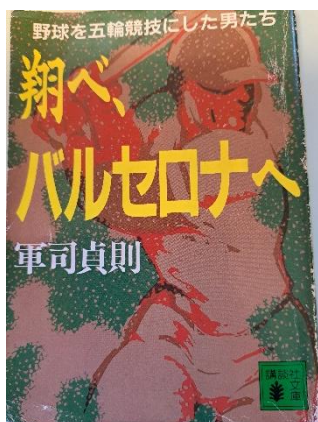
HP: <https://futuroo.base.shop/>

詳しい内容はホームページから→



🏆 ～ニカラグアと野球～ 🏆

WBC (ワールド ベースボール クラシック) はご存じのように日本が劇的な優勝を飾り閉幕しました。一方、ニカラグアは予選を勝ち上がったものの、ベネズエラ、プエルトリコと同組になり、結果は残念ながらグループリーグ全敗で敗退*。ここではニカラグアで一番盛んなスポーツである野球の発展に世界的に貢献した人物を取り上げた本と、ニカラグア出身の英雄を紹介したいと思います。



「翔べ、バルセロナへ - 野球を五輪競技にした男たち」
(軍司貞則 著、講談社文庫 1992 年) を読んで

この本は、野球というスポーツをオリンピックの正式競技にすべく行動してきた二人の人物—カルロス・J・ガルシアと山本英一郎—を核として描いているスポーツドキュメンタリーです。

カルロス・ガルシアは、ニカラグア出身、20代でニカラグア野球連盟とオリンピック委員会を組織し、野球をオリンピック競技にするという夢を持ち、そのために人生を捧げた人であり、サンディニスタ革命後、ソモサに近い人物ということで一度は投獄され、翻弄されてしまった人物。

そして、山本英一郎は、日本社会人野球協会 (当時) の常務理事で、日本のアマチュア野球を世界へと羽ばたかせるとともに、彼もまた野球をオリンピック競技とするために縁の下の力持ち的に尽力した人。

本書の中で私が読んで特に印象的に感じた場面は—

- ・ 1972年ニカラグアで開催された野球の第20回世界選手権 (16か国参加) で、日本チームが初出場の世界大会の場で、様々な国の野球人たちと交流して大きな収穫を得て、その存在を認められたこと。

- ・ 1973年にニカラグアとキューバの確執から分裂してしまった国際アマチュア野球連盟を統一させるために、山本英一郎がカルロス・ガルシアと対立するキューバのマヌエル・ゴンザレス・グェラ (キューバ野球連盟) の元を訪れ、腹を割って話し合うところ。

- ・ そして、1986年10月13日にIOC総会で野球が正式なオリンピック競技となることが決まった後にガルシア (フロリダ在住) から日本の山本 (“ヤミー” と仲間内で呼ばれていた) のもとに届いた短いメッセージ!

英語でタイプされたそのメッセージは、とても心動かされる内容で、これはまさ

にカルロス・ガルシアから同志・山本英一郎にあてた「勝利宣言」とでも言える手紙だと思いました。

これからプロ・アマ問わず野球を観戦するときは、このドキュメンタリー作品に登場している人々のことを思い出しながら観るとまた一味違ったものになるのでは、との思いを強くしています。

(松浦満夫)

●デニス・マルティネス (Dennis Martinez)

1955年5月14日グラナダ生まれ。

投手、右投右打。

メジャーリーグで活躍したニカラグア出身の選手と言えばこの人でしょう。

1976年～1998年までメジャーリーガーとして活躍しました。

特に、モンリオール・エクスボズでは1988年から1995年まで8年連続での2桁勝利を記録。

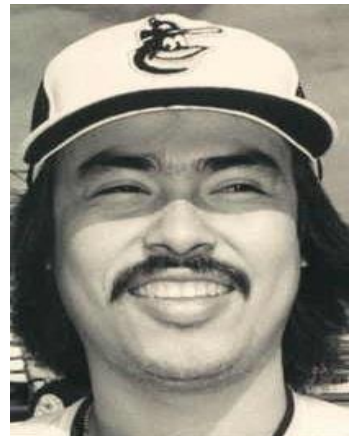
また、1991年7月28日の対ロサンゼルス・ドジャース戦で MLB 史上13人目の完全試合（相手チーム打者を一度も出塁させずに勝利すること）を達成。この完全試合は初のアメリカ合衆国以外の出身選手によってなされたものでした。

そして、ラテンアメリカ出身投手として最多勝利の通算245勝を挙げました。（この記録は2018年にドミニカ共和国出身のバートロ・コローン投手によって更新されるまで続きました。）

引退後は、メジャーリーグのチームで投手コーチやブルペンコーチを務め、2012年にニカラグア WBC 代表監督、2016年にはカナダ野球殿堂入りを果たしました。

ちなみに、ニカラグアの首都マナグアにはデニス・マルティネスの名を冠した「エスタディオ・デニス・マルティネス」という国立スタジアムがあり、主に野球、サッカー、闘牛に利用されています。

(松浦 満夫)



*WBC ニカラグア代表選手の中には、現在メジャーリーグで活躍している Yankees のジョナサン・ロアイシガ投手や昨年ナショナルズでプレーをしたエラスモ・ラミレス投手などがいるそうです。

ニカラグア AHORA —2023 年前半の動き

★2月4日 (AFP BB News)

オルテガ大統領は2日、イランと北朝鮮には核兵器開発を行う権利があり、米国に阻止する権限はないと主張した。

オルテガ氏は、同国を訪れているイランのホセイン・アミール・アブドラヒアン外相との会談で「われわれは原爆が好きなのではない。しかし、イランが原爆をつくりたいならば、(西側主要国に)それを禁じるどんな権限があるのだろうか」と問い掛けた上で、北朝鮮にも同様の権利があると主張した。

★2月10日 (時事通信)

ニカラグア政府は9日、三権を掌握して独裁色を強める反米左派オルテガ大統領(77)による弾圧を受け、投獄されていた政治犯222人を国外追放した。米国のブリンケン国務長官は同日、全員の受け入れを表明した。

首都マナグアの控訴裁は222人について「国の独立、主権、民族自決権を弱体化させ、暴力とテロ、経済的混乱を扇動した」などと断罪。「祖国の裏切り者であり、市民権は永遠に停止される」とした上で国外追放処分を言い渡した。

終身大統領を目指すオルテガ氏は、2021年11月の選挙に際して反体制派の政治家やジャーナリストらを次々と投獄。政敵を完全排除して4期連続当選を果たした。その後、人権侵害を批判する欧米諸国や国際NGO、カトリック教会と鋭く対立し、関係者の逮捕や追放を繰り返している。

★2月12日 (Vatican News)

教皇フランシスコは、2月12日(日)、バチカンで行われた正午の祈りで、ニカラグアの情勢に言及された。この集いで、ニカラグアの近況に深く心を痛められた教皇は、特に懲役26年の判決を言い渡されたマタガルパ教区のロランド・アルバレス司教(56)、また米国へ追放された多くの人々を憂慮をもって思い起こされた。

マタガルパ教区のアルバレス司教は、昨年8月19日、司教館から強制的に連れ出され、マナグアの自宅に監禁されていた。

その後、同司教は、司祭や、神学生、反体制の立場とみなされた政治家や市民ら222人と共に米国へ追放されることになったが、飛行機への搭乗を拒否したため、「国家に対する反逆」のかどで、懲役26年の判決を受けた。裁判は2月15日に開かれる予定であったが、先に判決が明らかになった。

一方、共謀罪で懲役10年の判決を言い渡された5人の司祭、1人の助祭、2人の神

学生は、追放され、米国に到着したという。

★2月14日 (CHRISTIAN TODAY)

ニカラグアの裁判所は10日、カトリック教会のロランド・アルバレス司教(56)に対し、26年4月の禁錮刑を命じた。アルバレス司教は当局から政権に対する批判者として見なされており、禁錮刑の他に、約20万円の罰金と国籍剥奪も命じられた。ロイター通信(英語)やカトリック系のCNA通信(英語)によると、アルバレス司教は反逆罪のほか、国家安全保障と国家主権を損なう罪、フェイクニュースを流布した罪、公務執行妨害、加重不服・権力侮辱罪などで有罪とされた。

★3月14日 (YAHOO ニュース)

現地時間の3月13日に行われたWBCニカラグア代表対ドミニカ代表戦で、同試合に登板したニカラグア代表の21歳投手が、試合終了わずか1時間後にタイガースと契約合意した。選手の名前は、デューク・エベルト投手。米メディアによればこれまでニカラグア以外ではまったく無名の存在だったようだが、昨シーズンは国内リーグで新人王を獲得している若手有望選手だった。

MLB公式サイトによると、この試合を現地で観戦していたタイガースでスカウトを務めるルイス・モリーナ氏は、試合終了後すぐにエベルト投手と接触し、その場でマイナー契約を提示し合意に至ったという。

エベルト投手はWBCが終了した後もニカラグアに帰国せず、そのままタイガースのマイナー・キャンプに参加する予定だ。

★4月14日 (CNN)

介護施設で働いていたコスタリカ籍の修道女2人が今週、国外へ追放された。オルテガ大統領は野党指導者やジャーナリスト、カトリック教会への弾圧を広範囲に行っている。

強権的なオルテガ氏がかねて国内の聖職者を標的とし、キリスト教の司教らを「テロリスト」と呼んでいる。同氏はカトリック教会が2018年の反政府抗議デモを支援したと糾弾。政府はこのデモを「クーデター未遂事件」と位置付ける。

同教区の司教によれば、2人はニカラグアで介護施設を経営していたという。司教はこの他、支援者らに対し、2月に投獄されたニカラグアのロランド・アルバレス司教のために祈るよう呼び掛けた。

．．． 事 務 局 だ よ り ．．．

① 2022 年度の会計報告

(収 入) 約 316 万円

内訳 維持会費 14 万円	寄付 15 万円
事業収入 42 万円	助成金 3 万円 雑収入 76 万円
繰越金 166 万円	* 事業収入にカレンダー売り上げも含まれる

(支 出) 約 118 万円

内訳 委託事業 21 万円	カレンダー事業 19 万円
素朴画購入費 4 万円	広報活動 5 万円 他事業への寄付 2 万円
管理運営 66 万円	分担金 1 万円

次年度への繰越金 約 198 万円

- * 支援事業、できませんでした。送金も難しくなっています。が、コロナも落ちついてきましたので、今年度はそれなりの活動をしたと考えています！
- * 2022 年度も、名古屋 NGO センター「おうえん募金」から支援をいただきました。ありがとうございます！
- * 委託事業とは、アドボカシーに関する事業で、事業主体である「泉京・垂井」さんから、業務一部を委託されています。ただ、3 年間の限定で最終年度になります。
- * 他事業とは、阿部さんのニカラグア女子野球関連イベントです(映像作成)。

② 2023 年度定時総会開催のお知らせ

日時： 2023 年 5 月 28 日(日) 午後 3 時より (午後 4 時頃終了予定)

場所： ニカラグアの会事務所(名古屋市中村区那古野 1-44-17 嶋田ビル 302 号
地下鉄桜通線「国際センター」駅から徒歩 3 分)

* 総会には、「維持会員」として年会費を納めていただいている方、およびこれまでご寄付をいただいた方であればどなたでも参加できます。なお議決権の関係で、「維持会員」の方には、総会の出欠はがき(委任状)を同封いたしましたので、5 月 25 日(必着)までにご返信をお願いいたします。